

☆中国

化繊設備

賽得利、レーヨンSの新ライン稼働へ

金鷹国際集団傘下の大手レーヨンメーカー賽得利（福建）化繊は、このほどレーヨン短繊維の新ラインの稼働を開始した。設備能力は全体で年産20万ト、4つのラインからなり、第1、第2ライン（各5万ト）は既に生産を開始している。残りの2ラインは試験生産中であり、数か月以内に生産が開始される見通し。全4ラインが稼働すると、同社のレーヨン短繊維の設備能力は年産36万トとなる。

同社の川上事業では、ブラジルでユーカリを植林し、ブラジルや中国向けに特殊セルロースを生産している。

☆ブラジル

炭素繊維

Radici Group、炭素繊維プリカーサ製造へ

南米及びヨーロッパのナイロンメーカーRadiciGroupは炭素繊維の原料となるPANプリカーサ（ポリアクリロニトリル PAN 繊維）の研究開発をブラジルのRadici Fibras Ltda 工場で行っている。1998年にRadiciGroupブラジル São José dos Campos のアクリルS工場を買収したが、2010年以降ブラジルではアクリル繊維の需要が急激に落ち込んだため、最近ではアクリル繊維の製造を停止し、ナイロン6繊維へと注力する一方、セメント繊維や炭素繊維プリカーサ等、特殊繊維製造の研究を重点的に行ってきた。

Radici Groupによると、合繊製造で培った経験やノウハウが高性能・テクニカル繊維、特にPANプリカーサを開発する上で役に立っており、現在、PAN繊維の工業生産を目指して、これまで使用していたアクリル製造設備の一部を転用するプロジェクトを計画しているという。既にRadici Fibras内のパイロットプラントでは第三機関向けの少量生産を開始しているという。

☆アフリカ

調達

H&M、アフリカからの調達を拡大へ

大手SPAのH&M（Hennes & Mauritz）はこのほど、サブサハラ地域からの衣料品調達を本格的に検討していることを明らかにした。

現在、H&M社は衣料品調達の大半を、バングラデシュを中心とするアジア地域から調達しているが、バングラデシュでは昨年、建屋の崩

落事故で1,100人超の従業員が死亡、これを機に、同国の縫製業者の労働環境の改善が強く求められるようになった。また、選挙がらみで発生した暴動もバングラデシュからの衣料品調達に支障をきたした。一方、カンボジアでの縫製工場のストライキによって、多くのブランドの商品調達に混乱が生じた。こうしたことから、同社では、調達先の集中リスクを分散したいとの意向が働いている。

同社関係者は、既にすでに小規模ではあるがエチオピアからの衣料品調達を進めており、将来的には、アフリカがバングラデシュ、中国、カンボジアを補完する見通しであると語っている。同社は、短期的には大きな変化はないが、長期的には価格、品質、リードタイムなどの条件によっては調達先に大きな変化が起こる可能性があるという。

H&Mは、アフリカを調達拠点に加え、アフリカの中間層の拡大を背景に販売拠点としての可能性も模索している。2015年に、モロッコやエジプトに次ぎ、南アフリカに同国初の店舗を開店する予定。

以上